

ドイツ語圏文化学科

# 卒業論文執筆要領

(2022年度版)

## 目次

0. 卒業論文の必要条件.....	2
1. 提出 .....	2
1. 1. 正本（教務課提出用） .....	2
1. 2. 副本（ドイツ語圏文化学科事務室用） .....	3
2. 論文の構成.....	3
3. 書式.....	3
3.1. タイトルページ .....	3
3.2. 目次 .....	4
3.3. 本文 .....	4
3.4. 章・小節の題（見出し） .....	5
3. 5. レジюме .....	5
4. 執筆上の注意 .....	5
5. 「引用」・「参照」・「脚注」・「参考文献」について執筆上の注意.....	6

## 0. 卒業論文の必要条件

- 合格するためには以下の条件を満たす必要があります。
- 0. ドイツ語圏にかかわることがらを研究対象とすること。
  1. ドイツ語で書かれたテキストを必ず読み、筆者の論述にとって重要な箇所を論文中で原文で引用し、日本語訳を添えること。（訳はできるだけ筆者訳とするが、既訳を参照した場合には、その旨を明記すること）
  2. ドイツ語レジュメを付すこと。なお、このドイツ語レジュメの添削を、ペーカー先生以外の先生に依頼しないこと（指導教授にも依頼しないこと）。
  3. 指導教員の指導を定期的に受けること。

## 1. 提出

※ドイツ語圏文化学科事務室締切：14時、教務課締切：16時

※ただし、コロナウイルス感染状況によっては、郵送等別の手段の提出になる可能性もあります。G-Portでの連絡を常に確認するようにしてください。

- 提出期限：2022年12月20日（火）14時まで
  - これは、事務手続き上の最終期限です！もっと早く提出するように心がけてください。
  - 「正本」の教務課への提出期限は2022年12月20日（火）16時ですが、提出物が揃っているか事前にチェックします。正本、副本ともに必ず14時までに学科事務室に持ってきてください。
  - なお、書式を含め、卒業論文の中身については事務室では相談を受け付けていません。質問は指導教員にし、自分でよく確認のうえ提出してください。
- 提出場所：教務課（正本）およびドイツ語圏文化学科事務室（副本）
  - 「正本」は、学科事務室でチェックをうけた上で、教務課に提出。

### 1.1. 正本（教務課提出用）

- 学科事務室にて配布するファイルにとじて提出。
  - このファイルの表紙にも、後述する「タイトルページ」と同じ内容の情報を印刷して貼ってください。また、背表紙にタイトルと氏名を書いて貼ってください。

【日本語で書く場合、以下のもの全てに穴を空けて、ファイルにとじる】

- 1) ドイツ語レジュメだけをホッチキスでとめたもの
- 2) ドイツ語レジュメ
- 3) 日本語レジュメ

- 4) 論文 (タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料])

【ドイツ語で書く場合、以下のもの全てに穴を空けて、ファイルにとじる】

- 1) 日本語レジュメ
- 2) 論文 (タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料])

## 1.2. 副本 (ドイツ語圏文化学科事務室用)

- 以下の順番で、学科事務室で配布する水色のファイル (FLATFILE OSFE-A4S-B) にとじて提出。
  - このファイルの表紙にも、後述するタイトルページと同じ内容の情報を印刷して貼ってください。また、背表紙にタイトルと氏名を書いて貼ってください。

【日本語で書く場合、以下のもの全てに穴を空けて、ファイルにとじる】

- 1) ドイツ語レジュメ
- 2) 日本語レジュメ
- 3) 論文 (タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料])

【ドイツ語で書く場合、以下のもの全てに穴を空けて、ファイルにとじる】

- 1) 日本語レジュメ
- 2) 論文 (タイトルページ、目次、本文、参考文献一覧 [+資料])

## 2. 論文の構成

- 論文は、「序論」 - 「本論」 - 「結論」の3部から構成されます。例えば論文が5章から成る場合は、第1章が序論、第2章～第4章が本論、第5章が結論となります。
- 「序論」では、研究対象の定義、研究対象に対する概観、研究の方法 (分析法)、そして問題提起 (何を明らかにしたいのか?) 等を述べます。
- 「本論」では、「序論」で述べた方法で研究対象について分析・論述をします。最後に「結論」では、「序論」で示した問題提起に対する答えを示します。  
(過去の卒業論文・卒業研究は、学生閲覧室のキャビネット内に保管されています。自分自身のテーマに近いものをいくつか見ること、論文構成についての具体的なイメージがつかめるので、一度見てみることをお勧めします。)

## 3. 書式

### 3.1. タイトルページ

- タイトルページには、以下の情報を記載します。
  - 「2022年度 卒業論文」（中央寄せ、14 ポイント）
  - 「日本語タイトル」（中央寄せ、20 ポイント）
  - 「日本語副題」（中央寄せ、14 ポイント）
  - 「ドイツ語タイトル」（中央寄せ、20 ポイント）
  - 「ドイツ語副題」（中央寄せ、14 ポイント）
  - 「学籍番号」（右寄せ、16 ポイント）
  - 「氏名」（右寄せ、16 ポイント）
  - 「指導教授名」（右寄せ、16 ポイント）

※ドイツ語で執筆する場合、日本語のタイトルは必要ありません。

※副題がないときには、日本語・ドイツ語のメインタイトルの後に「。」や「.」をつけません。

※副題があるときには、日本語のメインタイトルと副題のあいだ（副題の両側にはない）に一つの「—」（全角ダッシュ、U+2014）を付けます。ドイツ語のメインタイトルの終わりには「.」を付け、半角を空けたうえで副題を書きます。副題の終わりに「.」は付けません。

※題名届には、濁点と半濁点を含む文字はそれらを含めて一文字としてください（「°」と「°」に一マス使わない）。

### 3.2. 目次

- 「本文」中の各章・小節の題とその章・小節が始まるページを、日本語なら「MS ゴシック」、ドイツ語なら「Arial」で、いずれも 10.5 ポイント で書きます。

### 3.3. 本文

- フォーマット：A4（40 字×30 行）で、上下左右に 30 mm ずつ余白を空けます。
- 執筆枚数
  - 日本語で書く場合：2万字以上あるいは 17枚以上
  - ドイツ語で書く場合：4500語以上あるいは17枚以上
- ※表紙・目次・レジュメ・図表・参考文献リスト・資料は除いてカウントしてください。
- フォント：日本語は「MS 明朝」あるいは「游明朝」、ドイツ語と数字は、Times New Roman “で、いずれも 10.5 ポイント。
- ページ下部中央に、ページ番号を算用数字でつけます。
- 句読点
  - 和文：全角の「、」と「。」
  - 欧文：半角の「,」と「.」

- カッコ
  - 和文：全角の各種カッコ
  - 欧文：半角の各種カッコ
  - 和文中であっても、欧文を引用する場合やドイツ語の文献名を挙げる場合には、半角のドイツ語入力の引用符 („, “) [99, 66] を使ってください。

### 3.4. 章・小節の題（見出し）

- 各章・小節の題は、日本語なら「MS ゴシック」、ドイツ語なら„Arial“で、いずれも 12 ポイントで書きます。
- 章・小節の題と本文とは、10.5 ポイントで 1 行分空けます。

### 3.5. レジюме

- 執筆枚数：日本語、ドイツ語、ともに A4 で 2~3 枚程度。
- レジюмеの本文の書式は上述「2.3. 本文」のドイツ語で書く場合の書き方にあわせてください。
- レジюмеには、日本語／ドイツ語それぞれの論文タイトルと氏名を記載します。下記の情報を 1 行目から、上から順に記載します。
  - 「日本語／ドイツ語タイトル」（中央寄せ、12 ポイント）
  - 「日本語／ドイツ語副題」（中央寄せ、10.5 ポイント）
  - 「学籍番号」（右寄せ、10.5 ポイント）
  - 「氏名」（右寄せ、10.5 ポイント）
- 氏名に続けて 1 行スペースを空けて、本文を始めてください。
- 本文とは別に、レジюмеだけでページ番号をつけます。
- ドイツ語レジюмеを添削してよいのはペーカー先生のみです。指導教授にお願いすることは避けてください。

## 4. 執筆上の注意

- 執筆にあたっては、執筆者自身の考察部分であるのか、先行研究に依拠した「引用」の部分であるのかをつねに区別してください。
  - 本文中、脚注中を問わず、引用する場合には、出典とページ数を明記する。
  - 参考文献（インターネットによる情報も含む）に書かれた言葉を、出典を明記しないで書くことは無断引用であり、剽窃行為にあたります。
  - 剽窃行為が明らかになった場合、その論文は不合格となります。
- いったん提出した論文は、あとになって別のものと差し替えることはできません。内容

上の問題だけでなく、誤字脱字もふくめて、何度もよくチェックした上で提出してください。

- 誤字脱字などをチェックするために、指導教授の先生だけでなく、書いたものをクラスメートや他の人にも読んでもらうことをオススメします。
- ドイツ語で書く場合、それぞれの単語のあいだだけでなく、ピリオドやコンマ、カッコ(閉)のあとにも半角スペースを入れ忘れないようにしてください。

良い例) Das 1. Buch Mose (Genesis) fängt mit der Schöpfung des Lebens im Garten Eden an.

悪い例) Das 1.Buch Mose (Genesis)fängt mit der Schöpfung des Lebens im Garten Eden an.

## 5. 「引用」・「参照」・「脚注」・「参考文献」について執筆上の注意

別添の「参考文献の表記方法」(2022年度版)を参照し、その指示に従うこと。